

事務執行状況点検評価報告書

平成 2 1 年度事務事業分

紀美野町教育委員会

はじめに

紀美野町教育委員会では、本町総合計画において、“豊かな教育をめざすまちづくり”を支える柱に、「学校教育を充実し、次世代を育てる」と「文化・スポーツ活動を通して社会教育を振興する」を掲げ、それぞれ具体的な事務事業に取り組んでいる。

これらの事務事業を推進するに当たり、随時点検評価を行い、その結果に関し、報告書を作成した。

平成21年度に実施した事業について次のとおり点検・評価を行い、その結果を報告書にまとめた。

平成22年9月

紀美野町教育委員会

点検・評価等について

・実施根拠

点検・評価の実施については、教育委員会の責任の明確化や体制の充実等を図るべく、紀美野町教育委員会評価等実施要綱に基づき実施した。

・評価等の対象

評価の対象は総合計画に基づいて、前年度に実施した事業のうち主なものについて評価をいただいた。

・点検、評価の方法

点検及び評価に際し、必要性、効率性、有効性、公平性等の観点から分析し、それぞれの項目別に5段階評価する「5:的確」「4:良好」「3:妥当」「2:要検討」「1:要改善」で表した。評価の今後の方向性として「廃止」「見直し」「休止」「継続」「拡大」の5つの方向性で示した。評価の客観性を確保するため、教育委員会評価委員会を設け、外部の立場から評価方法や観点などについてご意見ご助言をいただいた。

弓庭 武彦

評価委員の委員氏名

松本 守信

堀 有子

・評価等の結果

教育委員会の総合評価の結果は、次のとおりである。

(1) 評価の判定別事務事業数

評 価	5	的確	十分に成果を発揮している	1
	4	良好	ほぼ成果を発揮している	39
	3	妥当	おおむね成果が上がっている	3
	2	要検討	成果が上がっているとは言えず要検討	6
	1	要改善	成果がほとんど上がっておらず見直しが必要	0

(2) 今後の方向性別事務事業数

方 向	廃止	見直し	休 止	継 続	拡 大
事業数	0	2	4	41	2

・まとめ

今後の事務事業について、事務事業の目的、必要性等を踏まえ、常に問題意識を持って事務事業の遂行に当たる必要がある。児童数・生徒数が減少する中で、学校の教育環境の充実に努める。また、財政改革により厳しい財政運営を強いられる中、実行している事業の優先度や緊急度等を勘案し、計画的、重点的な事業実施に努める必要がある。

点検評価結果

1. 教育委員会事業

目的：教育行政について審議をはかり教育行政の具体的な施策推進を図る。

内容：教育委員会の委員の構成は、性別では男性4名、女性1名となっている。

教育委員会の開催・学校訪問、実態研修会情報交換会等の参加。町内小中学校の各研究会に参加し成果の状況確認をする。

教育長と委員1名が任期満了となり教育長が新たに改選され、委員が再選された。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：教育委員会の毎月開催も課題であるかと思いますが、町内小中学校各校での特色ある行事、研究会の時に視察をされて実施に成果を見ていただけるよう積極的な企画をお願いします。又、活動内容や定例会での審議内容等、可能な範囲で発信していただければと思います。

課題・方向性：委員の都合もあるが、月1回開催を目指したい。

2. 豊かな体験活動事業

目的：農山漁村における人々との交流や郷土とは違う自然や文化にふれる体験を通し、子どもの人間性や社会性を育む。

内容：国の補助事業を受け、自然そのものや自然を利用した産業について学び、民家に宿泊して現地の人々との交流を深める。

判定： 2 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：国からの補助金打ち切りということで「中止」はやむを得ないと思います。生きる力や豊かな心を育む上で貴重な事業ですから、他の機会に補っていただければと思います。

課題・方向性：補助制度が復活できれば参加したい。

3. ALT 設置事業

目的：中学校・小学校で英語を教え、地域住民との交流を深めることにより、外国語教育の充実と地域の国際交流の進展を図る。

内容：中学校における外国語教育の補助、小学校における国際理解教育の補助など

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：ALTによる小中学校における英語指導により、英語でのコミュニケーション能力が向上するとともに子どもたちの外国文化への関心も高まっていると思います。今後もより一層学校のニーズに応えられるよう、配置された2名のスタッフを有効活用していただきたいと思います。

課題・方向性：JETを通じて採用した場合、最長で5年しか任用することができない。

優秀な人材を当方で選定することができない

小学校での授業数が増えれば、現在の2名体制で対応できるかどうか。

4. 適応指導事業（不登校児童）

目的：不登校等の児童生徒並びにその保護者に対する教育相談による支援と、引きこもりからの改善途上にある別室登校の児童生徒の学習支援を図る。

内容：県教育委員会より野上中学校並びに美里中学校へスクールカウンセラー1名が配置され、年間45日の教育相談日を設けた。教育相談は保護者並びに学級担任等に対する間接的なものと、別室登校生徒への直接的なカウンセリングを実施している。また、国の交付金措置による学校教育支援員を4小中学校に配置し、そのうち3小中学校では、別室登校児童生徒に対する個別的な学習保障として活用した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：本町では不登校生徒が減少傾向にあるとの事で、事業の成果が認められません。課題を抱える児童生徒や保護者、また学級担任にとって、カウンセラーや学校教育支援員の存在は大変心強く、大きな役割を果たしていると思います。

課題・方向性：スクールカウンセラー配置に係る国の補助金が削減され、スクールカウンセラーの教育相談日・時間が減少傾向にある。また、これまでの事例によると、不登校等のきっかけとなる気質は小学校の段階で表れている。町内小学校の保護者からの相談依頼が少なく、小学校の保護者への啓発を保護者会PTA活動を通し積極的に図る。また、学校教育支援員の活用面では、資質の向上を図るための研修等の実施に県教育委員会をはじめ近隣市町教育委員会と共同での実施等を働きかけていく必要がある。

5. 研究指定校事業

目的：学校全体及び教師による教科・領域の指導方法や効果の向上を図る。

内容：国・県が実施する指導と成果に関する調査研究は、指定校数や研究の種類が削減されてきている。ここ数年来、各学校が自主的な実践研究に適合あるいは類似した事業について積極的に活用し、すべての学校実践研究を実施してきた。そのことがきっかけとなり、各学校では独自のテーマを設定して継続的に研究実践を続けている。

判定： 4 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：指定研究の積み重ねが、その学校としての教育力を一歩ずつ押し上げていたと思います。学校の教育力のアップは当然に生徒の学習意欲アップに繋がっていたと思います。補助が無くなり休止に至ることは残念です。

課題・方向性：国または県の指定研究に対しては、町より実践研究に必要な経費の補助を上乗せして、研究の充実を図ってきた。効果的な国・県の事業活用が期待できない現状において、自主研究経費に対する支援は、町教育委員会委託事業である学力・体力・判断力アップ事業と、夢づくり事業のみとなっている。

6. 学校耐震事業

目的：災害時において児童生徒の安全を確保するとともに、地域の避難場所として利用できるように、耐震補強を行う。

内容：町内の小中学校で耐震診断補強ができていないのが、木造構造の毛原小学校のみであり、本年で耐震診断を実施した。

判定： 4 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：毛原小学校については先のことを見通すと中止もやむを得ないと思います

が、いつ何どき発生するかも知れない地震に対し、現状で可能な限りの安全対策を講じられたいと思います。

課題・方向性：非木造校舎の耐震補強率は、100%となっており事業は完了している。毛原小学校の木造校舎が、今年度実施した診断の結果、補強工事が必要と判定された。しかしながら、校舎の耐震工事については、児童の減少により学校統合問題等が懸念される中、計画的かつ総合的に検討していかなければならない。

7. 職場体験

目的：中学生が、それまでに培ってきた勤労観・職業観を、体験により確かなものとして実感させ、社会人・職業人として自立していく力を身につけさせる。

内容：地域の事業所において3日間の職業体験を行いながら、社会のしくみや大人として身に付けなければならない知識・態度や礼儀・マナーを学び、社会の一員として自分を生かすための目標を見出す。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：本町内では体験できる事業所が限られていますが、出張先等で様々な職業体験に出会う事があり、とても有益な事業であると考えます。体験により、授業時間が減少する事を懸念する保護者の意見も必ず出てくるとは思いますが、生徒の社会性を育む効用は大きく、その効果は後年になって現れるものであると思います。

課題・方向性：（県）の1/2補助が減額される方向にあるが、傷害保険・自賠責保険への加入については、学校安全会の保障を適応させるなどにより対応していく必要がある。各中学校の生徒数が減少しているが、安全面から生徒が体験できる業種には制限があり、また、事業所の受け入れ可能人数をできるだけ少なくする方が効果は期待できるため、生徒の受け入れ可能な事業所の開拓は今後も必要である。

8. 就学援助事業

目的：児童生徒の教育機会の均等を保障し、義務教育の円滑な実施を図る。

内容：教育委員会へ、学校を通じて保護者より申請書が提出され、審査の上認定を行う。認定された保護者に、学用品費等の就学上必要な経費の一部を援助支給する。また、児童生徒の修学旅行にかかる経費を援助支給する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：審査基準等を本町の実態を勘案されて、制度の周知徹底を図り困っている家庭に適切な運用を望みます。国の支給額によっては援助を検討するケースも出るのではないかと思います。

課題・方向性：年々、認定件数・援助費は増加している。

9. 青少年健全育成事業

目的：青少年の豊かな情操と優れた創造性・社会性を育て、地域社会全体で次世代を担う青少年の健全育成を図る

内容：青少年の健全育成を目的とした各団体へ補助金を支出しそれぞれの育成事業を補助する

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：地域住民の青少年育成の意識を高め、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりを目指していただきたいと思います。

課題・方向性：会員の減少による弱体化、委員の高齢化、会員の勧誘を推進。また、各団体の活動内容を十分吟味しながら、協議・指導助言をする。

10. 児童館利用事業

目的：児童に健全な遊び場を与えてその健康を増進し、情操を豊かにする。

内容：児童に遊び場を提供して町内5箇所で（中央児童館（月曜日～土曜日）・その他児童館（水曜日・土曜日））開館した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：少子化の中、安全な居場所として必要と思います。

課題・方向性：閉館時間の検討

11. 学童保育

目的：児童の放課後の生活を保護者に代わって安全に過ごさせることであり、保護者の代わりに家庭的機能の補充をしながら、「生活」の場を提供し、「遊び」及び「生活」を通して子どもの健全育成を図る。

内容：放課後の児童を保護者に代わって「勉強」「遊び」を教えて自宅と同様な場を提供している。（町内2箇所）祝日を除き（月）～（金）まで開所した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：保護者の就労環境の変化に対応した、今後益々必要とされる事業であると思います。希望者が多い場合についての対応も今後の課題になると思います。

課題・方向性：野外保育を多く取り組む。下神野保育施設（部屋）の狭隘のため数年先での保育場所の確保。

12. 夢づくり事業

目的：子どもたちの文化的な学習活動や地域の文化財産を活用した学習活動やそれに係る実践研究推進等、各学校の課題に応じた独自の教育実践及び実践研究を推進する。

内容：かなえたい夢や新しい自分を発見する機会を持つことで、子どもたちの挑戦する心を育成する各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：生徒数減少の事情に対応して、文化的事業を合同で実施すべくプロデューサーの役割を果たす人（部署）が必要ではないでしょうか。プロデュース力の有無によって本事業の成否が分かれるように思います、少ない予算と各学校が協力しながらの事業遂行は十分成果をあげていると思います。

課題・方向性：予算削減の傾向にある。文化的な芸能鑑賞では、いくつかの学校が合同で鑑賞会を実施するような工夫も必要である。町学校教育基本方針の柱であり、効果的な活用を研究する必要がある。

13. 学力体力判断力UP事業

目的：町学校教育推進の柱である「確かな学力」「確かな体力」「確かな判断力」の育成理念に基づく各学校の計画的・継続的な実践研究を支援する。

内容：知・徳・体の調和を図り心身ともに健全な児童生徒の育成を目指す各学校独自の取り組みに対し、必要経費の支出を各学校に委託する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各学校共、教育委員会や講師の指導のもと、自主的にかつ継続的に授業研究が進められ、特色ある学校づくりができていたことは大いに評価できると思います。今後とも魅力ある学校づくりのために物心両面の支援をしていただきたいと思います。

課題・方向性：予算削減の傾向にある。一方では、平成21年度より指定研究校への補助金は支出していないため、指定研究を積極的に取り入れてきた平成20年度以前と比べると、実践研究への支援は二重に削減していることになる。これまで以上に本町各学校の実践研究を活性化するためには、量と質の両面で本事業の必要性を確認しなければならない。

14. 教材備品等の調達

目的：各教材及び図書等を整備し、児童生徒がよりよい環境の下で学習に励み学力の向上を図る。

内容：学校からの要望により図書及び教材等を整備する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各学校で定期的再調達の必要性を織り込むよう、慎重に検討した上で要望していく姿勢が必要だと思えます。

課題・方向性：教材備品については年々デジタル化が進みデジタル関連製品が増えてきている。また、デジタル機器の技術の進歩が早いため、すぐに性能の上のものが出てくる。ソフト等のライセンス購入でPC教室用に整備するとなると数量が多いので、金額面でもかなりのものになり、予算的な問題も出てくる。

15. 通学バス運営事業

目的：学校の統廃合に伴う通学時間の短縮手段として各通学区域に運行を行う。

内容：通学バス6台（旧志賀野小区域・旧柴目長谷分校区域・旧真国小区域・旧上神野小区域・旧国吉小区域・旧長谷小区域）・マイクロバス1台（各学校の校外授業・行事等）

判定： 5 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：定期的な車両の更新、安全運行の為に車両整備、運転手の高齢化対策等、今後の手数増大が懸念されます。適正価格での完全民間委託などは検討できないでしょうか。

課題・方向性：5～10年先には、老朽化に伴うバス車両の買い換え、運転手の高齢化に伴う新しい運転手の確保等が必要となる。

また、今後の児童生徒の減少に伴い、車両サイズの適正化及び効率のよい運行ルートの改正が必要であり、更には安全な運行及び適正な車両管理等の質の向上が望まれる。

16. 声かけ運動事業（町民一斉清掃）

目的：子どもから大人まで、地域のみんなで力を合わせ、自分たちの町を自分たちの手で美しくする。

内容：毎年5月と10月の第3日曜日に行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：町民一斉清掃は、町をきれいにするという意識を高めるとともに、地域交流の機会にもなっていますので、継続を望みます。

課題・方向性：清掃は町内全域が同じ日でなく以前より定められている地域もあり、同じ地域の人達がみんなで町をきれいにするための声かけ運動をしていく。

17. 更生保護女性会

目的：保護司の協力機関として女性の特性を生かし、保護司の行う保護観察に協力して、更生保護思想を普及し世論の啓発をもって地域の防犯に努める。

内容：町民の愛の協賛金お願い・防犯ブザー配布・啓発資料作成・小中学校花時計及び公民館花植え他

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：ボランティア活動で幅広い事業を支えていただいています。今後とも引き続き活動をお願いしたい事業です。

課題・方向性：会委員の高齢化、若い会員の勧誘。ミニ集会の形態が変わり、地域にあった形態と変化しつつある。

18. 夏祭り

目的：ふるさと紀美野の「安心して住める町」「豊かな自然を生かした活気ある町」づくりに寄与することを目的とする。

内容：納涼花火大会・きみの音頭等総合盆踊り・ステージイベント・各団体の催し物（即売・夜店等）

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：毎年多額の予算を支出して頂いていますが、他のどこよりも花火を間近で見ることが出来る夏祭りとして、町外からの来訪者も年々増加しているように思います。本町のメインイベントとして引き続き実施頂きたいと思います。

課題・方向性：花火を中心にして、他の出演はマンネリズムにならないように、工夫していきたい。

19. 子ども祭り

目的：子どもたちに創り出す喜びと仲間とのふれあい

内容：児童が各コーナーに分かれてマガタマやパン、紙飛行機などを作った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：お世話してくださる方が大変だと思いますが、仲間とふれ合いながらの体験活動は子どもにとって大変楽しみです、豊かな心育てにもつながります。今後も活動

内容を創意工夫しながら継続していただきたいです。

課題・方向性：急激に会員の減少で組織化が困難になりつつあり、又創り出す喜びの検討も必要である。今後地域住民と一緒にあった組織作りを検討しなくては、いけなくなった。

20. 町校長会教頭会

目的：町学校教育基本方針の重点目標「校風の樹立」の具現化及び県教育委員会との連絡調整を図る。

内容：事業実施にあたる留意点等の周知並びに各学校教育活動の見直しと改善をすすめるための情報交流を図る。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：町内各学校の連絡調整のため、大切な事業であると考えます。

課題・方向性：開催時期主催は校長会・教頭会であり、開催についてはそれぞれ独自に計画されているため、各課・センターの事業実施時期との調整は難しい。校長会は総務学事課・生涯学習課担当が毎回参加、教頭会は必要に応じて総務学事課担当が参加している。

21. 特別支援学校通学補助

目的：障害のある児童生徒の特別支援学校への就学特殊事情にかんがみ、通学援助をすることによって、保護者の負担軽減を図ることを目的とする。

内容：紀北支援学校通学者9名・和歌山ろう学校通学者1名 計10名補助

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：審査基準等を本町の実態を勘案されて、教育委員会にてご判断いただくべき事項かと思えます。障害のある児童の保護者への負担軽減ということで評価できると思えます。

課題・方向性：町内に住民票があって、町外在住家庭の補助対象の扱いについては、規則等の整備が必要である。

22. 緑育推進「元気な森の子」事業

目的：森林で遊び学ぶ活動を通じて和歌山県の豊かな森林や林業、環境問題への関心を高め森林を守り育てる意識を醸成することを推進する。

内容：県補助事業を受け、森林観察や間伐体験などを行う

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：一定の継続性があり、定着した事業と思われます。

課題・方向性：自主性メニューでの参加を望む。

23. 子ども見守り隊事業

目的：各小学校において、子どもが安心して登校できるようにボランティアで見守る活動を行っていただいている方々の活動をサポートする。

内容：地域関係者・学校関係者が、登校時に各地域で声かけをし子どもの安全を見守った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各地域で、声かけすることによって、子どもたちの安全を確保するとともに、子どもたちとのふれあいの機会になっています。下校時についても可能な人から子どもたちに声かけをしてはどうでしょうか。

課題・方向性：下校時の見守り隊組織づくりをする。

24. 補導・夜間補導事業

目的：紀美野町に住む子どもたちが不良行為や問題行動の段階で、子どもに対して適切な助言や指導を行い、非行を防止する。

内容：野上八幡宮祇園祭や、きみの夏祭りでの補導その他にも、夏休み夜間補導5回子どもたちの集まりやすい場所を重点に補導活動を行う。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：子どもが減少する中で非行防止も然ることながら、子ども達との親睦の意味をも帯びてきている事業であると思います。今後も地域一帯となった補導活動をお願いしたいと思います。

課題・方向性：非行防止への啓発を重点に行う。又中学卒業後の追跡をしていく。

25. 町誌編纂

目的：旧美里町の郷土について、文化遺産を記述し先人の遺跡資料とするものである。

内容：近代編の資料をまとめ作業中、23年度完成予定

判定： 2 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：歴史を記録、保存することは大変意義のあることではあるが、製本等にかかる費用を考えれば期間を定めることはやむを得ないと思います。

課題・方向性：まとめが遅れている。

26. 小中学校学習推進事業（ICT・電子黒板）

目的：学校におけるICT環境整備の目標達成として教育用テレビのデジタル化・校務用コンピュータ教員1人1台・教育用コンピュータ児童生徒3.6人に1台・全ての普通教室に校内LANを整備

内容：デジタルテレビの購入・教育用テレビの50インチデジタルテレビへの買い換え町内小学校27台・中学校10台整備 電子黒板の購入・3中学校1校につき各1台配備 コンピュータ整備・教育用コンピュータ（小学校27台・中学校11台）校務用コンピュータ（小学校28台・中学校23台） 校内LAN整備・下神野小学校・野上中学校・美里中学校の教室及び職員室等。

判定： 3 今後の方向性： 休止

評価委員の意見：デジタル機器は陳腐化が早く、短年で事実上使用不能になります。導入時に併せて定期的再調達を必要性を織り込むような予算措置が取れないものでしょうか。

課題・方向性：殆どの学校のICT環境整備がなされた為、故障等で廃棄になるPC等は多少あるとも、ここ数年は教材備品のハード面では整備は少なくなる。また、それに伴うソフト面の整備が望まれる。

生涯学習

1. 社会教育事業

目的：生涯学習を展開するための計画や推進を図る。

内容：時代の変革に対応した生涯学習の成果をあげるため、町づくりは人づくりという理念を基に「紀美野町生涯学習振興計画」を作成し社会教育委員会（10名）の意見をいただきながら、それに基づき、現状に即応した具体的な実施計画を立て、社会教育指導員と共に企画運営に努めた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：文化面・スポーツ面、公民館活動等多彩な事業を実施され、大きな成果を上げていると思います。「学習」の語の出典である「論語」の精神に立ち返り、学び、習う事業策定をお願いしたいと思います。

課題・方向性：生涯学習の今後の展開について社会教育委員と共に計画を進めていく。紀美野町民歌、紀美野音頭を幅広く用いて町民に馴染んでもらえるよう積極的に活用して行きたい。

2. 町PTA連合会

目的：町内の園児、児童、生徒の安全と健全育成を願い連携と情報交換の活動

内容：町内単位PTA及び保護者が協力して研修、講演会の開催

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：文化センターで規模の大きい講演会が開催され、町内の全保育所、小中学校が参加する単位PTAと子どもたちの保護者・祖父母・地域住民が一堂に会して研修する機会がもてたことは意義深いと思います。研修、講演会にもある程度まとまった予算が必要となるので、広い参加を呼びかけながら、引き続き支援をお願いしたいと思います。

課題・方向性：今後もより連携して活動を行う。

3. 文化祭

目的：地域に根ざした文化活動の推進と文化に親しみ学びの機会とする。

内容：住民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるため日頃の活動の成果を発表する場として中央公民館・文化センターにおいて実施した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：練習の成果や作品をみんなに披露できることはサークル活動をしている者にとって大きな励みになり活動の活性化になっていますが、本町では会場が分散するデメリットを抱えています。両会場共に活発な展示、発表がされるように今後共支援をお願いしたいと思います。

課題・方向性：11月3日の文化の日を利用して開催していきたい。

4. 文化協会展

目的：町内の文化団体相互の連絡を密にし、郷土文化の発展を図り、明るい町づくりに寄与する。

内容：26団体（会員数344人）が加入し、春の文化協会展、ふれあいステージの開催、研修を実施するなど文化性の高い町づくりに貢献した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各文化団体に若年層が加入し易いように、開かれたイメージ作りをお願いしたいと思います。

課題・方向性：文化協会加入者の高齢化を防ぐ対策として、若年層の加入が必要である。

5. 町民大学講座

目的：町民の教養と知識を高め、文化の向上を図る。

内容：5月鎌田實「困難な時代をどういきぬくか」、7月池田香代子「100人の村 あなたもここに生きています」・山季布枝「ピアノ音楽で世界一周の旅」、11月エスペランサ「未来をくれためぐり逢い ～あなたに会えてほんとうによかった～」

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：毎回、講師のレベルも高く、他地域に誇ることの出来る事業だと思えます。町民のニーズを考慮し2部構成等、いろいろ工夫され町民の評判もとてもよかったと思えますので、引き続き実施されるよう願っています。

課題・方向性：今後も住民のニーズに合った講師を招き講演会を実施していく。

6. 公民館活動

目的：地域の生涯学習の核となる施設としてサークル活動の場として文化振興と住民相互の交流の場となるよう推奨していく。

内容：中央公民館、小川地区公民館、志賀野地区公民館の3公民館が、町民の生涯学習活動の実践をはじめ、文化活動の拠点としてその機能を発揮している。学習内容の多様化に伴い、公民館活動が盛んになり、年々サークル数が増え、夜間は部屋数が不足している現況であるが、学習の場、交流の場となっている。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：中央公民館への一箇所集中の解消が課題となっていると思えます。また町内4ヶ所の各サークルもあり、若年層が加入し易いように、開かれたイメージ作りをお願いしたいと思います。

課題・方向性：講座・サークル活動の場として公民館が大いに活用されている。今後、新しい講座やサークルへの育成と生き甲斐を見出せる場作りが必要となってくる。

7. 花いっぱい運動花苗配布事業

目的：多様化する社会に対応するため、心の豊かさと親睦の輪を広げ「心ひとつに町づくり」を目標に取り組む。

内容：町内の道路や公共施設に各種団体を中心に花の植え付けや管理を委託

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：高齢化に対応し、実施可能な規模の事業となるよう微調整が必要ではないかと思えます。

課題・方向性：管理協力団体の高齢化等により、植え替えることのいらぬ植栽も視野に入れて検討が必要。

8. 家庭教育学級

目的：多様化する社会環境の変化に対応するため家庭教育の推進。

内容：主に保育所保護者を対象に、子育て講演会、食育、絵本の読み聞かせ、など学習を行った。

判定： 2 今後の方向性： 見直し

評価委員の意見：就学前の保育所の保護者対象に実施されていることは意義深いと思えます。保健福祉課との「連携」が、事業推進にとって大きく作用すると思えますので「連携」のあり方を充分にご検討頂き、教育委員会としての方向性を明確にする必要があると思えます。

課題・方向性：保健福祉課と共に連携を持ちながら取り組んでいく。

9. 高齢者学級

目的：高齢化社会における生きがいつくりを重点に学習意欲を向上させる。

内容：老人会の協力のもと、志賀野・真国地区において料理教室、交通安全教室等を実施した。

判定： 2 今後の方向性： 見直し

評価委員の意見：保健福祉課が主体となって取り組む方向ではあるが、保健福祉課との連携を図り、連携が事業推進にとってプラスに作用するよう、教育委員会として、高齢者教育の取り組む方向性を明確にする必要があると思えます。

課題・方向性：保健福祉課において地域での健康づくり、生きがい作りに組んでいる「地域サロン活動」が活発化してきているため教育委員会独自の活動で無く保健福祉課と共に連携を図っていく。

10. 児童・生徒絵画展示

目的：展示することにより子どもの制作意欲を高め子どもの励みとなる。また、作品の展示により潤いのある庁舎にする。

内容：町内各保育所・小学校、中学校の児童生徒の絵画を役場本庁・美里支所・中央公民館・文化センターにおいて4ヶ月毎に額装して展示を行った。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：展示が子どもの励みとなることは間違いないので、今後も継続されるよう望みます。

課題・方向性：好評を得ている。

1 1. 人権教育事業

目的：人々は生まれながらにして固有する人権を護る精神にたって差別や偏見を無くす活動を通し、明るい社会の実現に寄与する。人権尊重の精神に徹し、身近な生活における人権に対する感性を磨き、人権意識の高い町づくりを行う。

内容：関係の各行政機関、各種団体が連携した「紀美野町人権委員会」が中心となり各区会と協力し、紀美野町を5ブロックに分け地域別研修会など啓発に努めた。

また、人権教育、啓発を総合的に理解し、各々のセクションでも主体的に発揮できるよう、議会議員、役場関係職員を対象に研修を行った。

啓発冊子「きみの気づき4」や人権パンフレットを利用し、保育所、小中学校、各種会議、地区懇談会等の際に配布し、研修資料とした。

人権に関する町民意識調査を行いその結果を基に「紀美野町人権施策基本方針」を作成した。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：啓発活動により成果が上がっていると思います。昨今「人権問題」の定義する範囲はとて広くなっており、子どもの虐待や高齢者の虐待、個人情報の問題等新しい人権問題も増えてきています、具体的な狙いを定める必要があります。

課題・方向性：仕事や家事で学習会や研修会に参加できない対象者への啓発のあり方や、企業・事業所に対しての人権教育・啓発の方法等気軽な参加を地域人権委員と共に検討し呼びかけ推進したい。

1 2. 放課後子ども教室推進事業

目的：子ども達の放課後の安全・安心な活動拠点として、地域の協力を得て子ども達と共に勉強やスポーツ等に取り組み、心豊かで健やかに育む環境づくりを推進する。

内容：中央公民館と文化センターに「ふれあいルーム」を設置している。毎週水曜日には、絵本の読み聞かせ、工作、スポーツなどプログラムを決めて、学習活動を行い、放課後の子どもの居場所として取り組んだ。

中央公民館、自然体験世代交流センターを拠点として4泊5日の通学合宿を開催し、計38名の児童が参加した。児童たちは集団生活を通し、周りと協力することや、家族に感謝することについて学び、地域のボランティアとの交流も深めることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：学童保育と同様に、保護者の就労環境の変化に対応したありがたい事業で今後益々必要とされるであろうと思います、小規模校では近くの公民館や学校の空き教室も利用しているとお聞きしています。

課題・方向性：ふれあいルームについて、スクールバス通学及び小規模校児童の対応。通学合宿については他校の児童との交流も考えて事業展開を図る。

1 3. みさと天文台事業

目的：星を学習するという側面の活動だけでなく、紀美野町の財産のひとつである美しい星

空を楽しみ、心豊かな生活につながられるよう、子どもから大人までを対象にした幅の広い活動をする。

内容：夜間の星空観察会だけでなく、日中でもイベントを定期的に行っており、天文教室等では、その時々のトピックスを取り上げる講演形式のものや、様々なアプローチで星空や自然に触れるイベントを行った。様々な天文現象の折には臨時に観察会を開催し、その時にしか見ることのできない現象を一人でも多くの方に提供できる機会を設けた。また、宝くじ助成事業「いつでも、どこでも、星空観察会」として採択され、エアドーム式デジタルプラネタリウムが導入された。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：運転者の高齢化により、夜間に天文台まで登ることに不安を感じる人が増えているのではないかと感じます。近年、天文台の方が積極的に出張講座（新しいプラネタリウム等を利用）を開いておられるので、この方向性で事業を進めて頂ければ展望も開けるように思います。

課題・方向性：和歌山大学及び国立天文台との連携により情報交換が積極的に行われている。今後もより一層、積極的な情報交換や活動を行い天文台をアピールしなければならない。

14. 文化センター事業

目的：心豊かな文化振興の実現を図り市民の教養と文化性を高め豊かな感性を磨くために文化振興事業に取り組み専門性の高いホールを有効に活用する。

内容：文化振興事業としては、NHK公開録音「上方演芸会」、きのくに舞台芸術支援事業「錦織健テノールコンサート」、上田正樹「きみのクリスマスライブ」を実施した。

判定： 3 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：文化的な補助事業を積極的に招致して、他地域の方にも足を運んでもらえるように取り組む必要があると感じます。

課題・方向性：住民のニーズに応えられる文化振興事業の取り組みと専門性の高いホールの有効活用。

15. 地域共育コミュニティ推進事業

目的：地域ぐるみで子どもを育てながら、大人も共に育ち、育て合うことができる地域社会づくりを目指して、学校・家庭・地域と連携を図っていく。

内容：全中学校区において地域コーディネーター6名の協力の下、定期的に交流会をもち、情報交換を行いながら、学校運営に地域の方々の参加を推進している。

町内の高等学校においても歴史のある図書館を地域に開放して交流の場にするため積極的に取り組んでいる。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：地域と学校、学校と保育所といった元々異質のコミュニティに属していたものをこの事業で統合的に巻き込むことで、お互いにメリットのある新たなものが（つながりや連帯感）生まれています、子どもたちも大人もお互いが育ち合っていると思います。さらに生涯学習の場に子どもたちが出入りできる環境作りはもちろん大切だと思いますが、今後もコーディネーターを中心にさらに充実した取り組みになるよう支援をお願いいたします。

課題・方向性：学校と地域が密接に関わっていくために、学校に出入りできる環境作りや意識づけが学校側にも、住民側にも理解できるよう、指導や啓発が必要である。

16. パークゴルフ・ゲートゴルフ事業

目的：生涯を通じて生き生きとした充実のある生活を営む、一つの方策としてスポーツを通じた活動を展開する。

内容：パークゴルフ

＊春大会（6月、参加者：142名）＊夏大会（7月、参加者：117名）

＊秋大会（11月、参加者：106名）＊チャンピオン大会（3月、参加者：130名）

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：多くの住民が生き生きと活動されているのを目にします。町内外のふれあいの場になっており、また三世代交流の場としても、今後より一層多くの方が参加されることを期待します。

課題・方向性：後継者の育成及び活動の拡充対策。

内容：ゲートゴルフ

＊全国大会（10月、参加者：57名）＊県大会2回開催、（5月・11月、参加者合計：376名）＊チャンピオン大会（3月、参加者：70名）

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：紀美野町発信の事業として好評を得ています。さらにより一層多くの住民が参加され、生き生きと活動され町民のふれあいの場になっていくことを期待します。

課題・方向性：ゲートゴルフ発祥地としての啓発活動と後継者の育成。

17. ふれあいマラソン大会事業

目的：走ることをとおして、紀美野町の美しい自然や文化、そして人とふれあうことで、紀美野町を全国にPRすると共に、人々の健康増進と交流を図り、心身の健全育成と相互の親睦を推進する。

内容：アップダウンに富んだロードレースのクォーターマラソンとパークゴルフ場の芝生の上を走るクロスカントリーレース、また誰でも気軽に参加できるウォーキングを開催し、子どもから高齢者まで幅広く参加することができるため町内はもちろんのこと町外、県外からも多くのエントリーがあり紀美野町を対外的にPRすることができた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：長年継続している「ふれあいマラソン」は、年々参加者も増加し、町外や県外からも参加者が集まるとのこと、大いに紀美野町のPRになっていると思います。事前の準備・当日の運営・後片付けと当局の苦労は並大抵でないと思いますが、紀美野町自慢の素晴らしいイベントだと思います。十分に成果が上がっていると思います。

課題・方向性：多くの選手の参加やボランティアのお手伝いにより運営ボランティア意識の高揚と紀美野町のPR及び町外・県外の方々との交流を図ることができている。

18. スポーツ少年団活動事業

目的：次の時代を担う青少年の健全育成を推進するため心身と体力の向上を図る。

内容：スポーツ少年団活動団体〔野球、バレーボール、剣道、サッカー、新体操、空手、少林寺拳法、バドミントン〕が活発に活動できる支援と施設の充実につとめた。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各団体とも指導者の方が献身的に指導されています。少子化の中ですが健闘を期待したい事業であると思います。

課題・方向性：児童の減少による新入団生の確保

19. 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会

目的：スポーツの振興と青少年の健全育成を図ると共に紀美野町の活性化に資する。

内容：町内小・中学生の選抜で7月から練習を始め、4回の試走を実施し2チームが出場した。結果第6位入賞を果たした。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：ナイター走ろう会やアスリート倶楽部、また中学校の早朝練習等、長きにわたる関係者の並々ならない取り組みが実って大きな成果を上げられました。町民も関心を持って子どもたちのがんばりに拍手を送りました。子どもたちはもちろんのこと指導者も関係者も町民も大きな感動を味わいました。子どもたちにとっても住民にとっても意義のある事業だと思えます。十分に成果を上げていると思えます。

課題・方向性：対象児童・生徒数が減少する中で出場選手の確保。

20. スポーツ・レクリエーション大会

目的：町民相互の健康増進と親睦を図り、スポーツの発展と文化の向上に資する。

内容：ゲートゴルフ（参加者：72名）・ソフトバレーボール（参加者：75名）・ペタンク（参加者：43名）

判定： 2 今後の方向性： 拡大

評価委員の意見：参加者、参加年齢層の拡大が課題であると思えます。

お互いの親睦を深めると共に健康増進を図る事業で町民も楽しんで意欲的に参加しています。今後もより多くの町民が参加するような種目の検討をしつつ継続していただきたいと思えます。

課題・方向性：今後、住民のニーズに合ったスポーツ種目を増やして幅広い年齢層の人が参加できるよう取り組んでいきたい。

21. ナイター走ろう・歩こう会

目的：町民のスポーツの振興と青少年の健全育成と体力の向上を目指す。

内容：スポーツ公園において7月・8月・9月と合計3回実施し、種目は100m、1000m、2000m、3000m、5000m、ウォーキングと6種目行い好評であった。また、空き時間を利用してホッケー体験教室を人工芝グラウンドにおいて開催した。

判定： 3 今後の方向性：継続

評価委員の意見：ホッケーの認知度アップの目的と併せて継続実施をお願いしたい。

課題・方向性：タイム計測をスムーズにおこなうため、コースの取り方等を検討する必要がある。

22. ホッケー推進事業

目的：2015年に和歌山県において国民体育大会が開催され、紀美野町スポーツ公園人工芝グラウンドがホッケー競技のメイン会場となることから、ほぼ決定していることから、町民にホッケーに親しむ機会づくりと普及を図っていく。

内容：体育指導員を対象にルールと体験学習、ナイター走ろう・歩こう会開催日に空き時間を利用して体験教室を行った。

判定： 2 今後の方向性： 拡大

評価委員の意見：まだまだホッケーの認知度は高いとはいえないので、ホッケーそのものに触れる機会を増やしてゆく必要があると思います。

課題・方向性：ホッケーは、まだまだ人々の身近なスポーツとして浸透していないため興味を示す方向作りを模索しなければならない。

23. 町広報誌「ふれあいネット」

目的：生涯学習の取り組みや出来事などを町民に広く広報する。

内容：毎月その時の文化事業やスポーツ事業に関するイベントの案内や生涯学習関係のトピックスやお知らせ等を「広報きみの」へ掲載する。

判定： 4 今後の方向性： 継続

評価委員の意見：各団体の活動を町民に知らしめる重要な役割を担っているので引き続き充実した内容を期待したいと思います。

課題・方向性：掲載する内容を吟味しながら今後も取り組んでいきたい。